

事項一三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件

二四〇 一月十一日

山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
倉知外務次官宛

朝鮮總督謀殺事件公判及在鮮米國宣教師ノ態度ニ関スル米國聯合通信東京支局主幹ノ談話
通報ノ件

官秘第九号

(一月十四日接受)

大正二年一月十一日

朝鮮總督府政務總監 山県伊三郎(印)

外務次官 倉知鉄吉殿

曩ニ朝鮮總督謀殺事件第二審公判傍聴ノ為京城滞在中ナリシ在東京米國聯合通信東洋支局主幹「ケネディー」ガ客年十二月三十一日出立帰京ニ際シ本府員ニ語リタル在鮮米國人宣教師ノ態度及公判ニ関スル同人ノ意見要領別紙ノ通御參考迄及内報候也

(別紙)

米國聯合通信東京支局主幹ノ談話

在鮮外國人宣教師(重ニ米國人ヲ指ス)ハ總督政治ノ目的

ノ機關ヲ利用シテ此等宣教師ノ態度ノ非ヲ鳴ラサムトス米國ニ於ケル伝道本部ガ此ノ際採ルヘキ方法ハ実ニ此等宣教師ヲ召還スルノ一事ニ在リト信ス云々

米國ハ東洋ニ於テ日本ト提携セザルベカラズ否ズンバ米國ハ東洋ニ於テ何事ヲモ為スコトヲ得ザルベシ若シ夫レ日米兩國提携シテ事ニ当ラムカ東洋ニ於ケル各問題ノ解決ハ易々タラムノミトハ余ノ予テ懷抱セル意見ナリ米國ハ日本ニ頼リ而シテ日本ヲ通シテ東洋ニ於ケル政策——即チ經濟上ノ政策ヲ実行スルヲ得ベシ若シ日本ノ意ニ反スルカ又ハ日本ト全然無関係ノ位地ニ在ラバ到底東洋ニ於ケル自己ノ政策ヲ実行スルニ由ナカルベシ前掲宣教師ノ態度ハ此ノ点ヨリ見テモ実ニ不穩當極マルモノニシテ彼等ハ動モスレバ日米兩國人ノ感情ヲ疎隔シ延テ兩國ノ国交ヲ阻害セムトス余ハ大ニ彼等ノ罪ヲ鳴ラサムトス云々

第二審ノ公判ノ方法ハ公明正大ニシテ而モ裁判ニ威嚴アリ此ノ如キハ余ノ未ダ曾テ実見セサル所ナリ裁判官ハ懇切ニシテ訊問周到而モ各被告ヲシテ其ノ云ハムト欲スルモノヲ悉ク云ハシメ充分ノ忍耐ヲ以テ之ヲ聴取セルハ実ニ賞讃ニ堪ヘサル所ナリ若シ夫レ通訳ノ親切ニシテ被告ノ如何ナル

一三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 二四一 二四二

ヲ以テ鮮人ノ圧迫ニ在リトシ此ノ趣旨ニヨリ其ノ鮮人教徒

ヲ動かシツ、アリ而シテ此ノ如キ誤想ヲ注入セラレタル教徒ハ又軼シテ之ヲ一般鮮人ニ伝ヘツツアリ固ヨリ宣教師ノ多数ハ真面目ニ伝道ニ従事シツツアリ例ヘハ「ゲール」ノ如キ、「ハリス」監督ノ如キ皆然リ唯上記ノ如キ誤想ヲ懷抱セルハ大頭ノ連中ニテ其ノ數六人カ七人位ナラムガ、彼等ノ態度ノ不當ナルハ固ヨリ論ナシ斯カル態度ハ実ニ吾米國ノ國是タル政策(モンロー主義ヲ指ス)ト反スルモノナリ元來朝鮮ニ於ケル總督政治カ一モ非難スヘキ点ナク鮮人ノ幸福ト利益ハ日々進捗シ且完全ナル保護ヲ受クルハ米國政府及米國人民ノ普ク認識スル所ニ係ル然ルニ此等宣教師ハ自國政府及人民ノ見ル所ニ反シ詭妄ノ弁論ヲ弄シテ總督政治ヲ批議シツツアルハ実ニ遺憾ノ極ニシテ一國ノ政府ガ其ノ國人ヲ支配スルニ如何ナル方法ヲ以テスルモ毫モ他國人ガ之ニ容喙スルノ必要ナキモノナリ他國ノ政治ニ干渉容喙スルハ実ニ米國ノ政策ニ背馳スルモノト謂ハザルヲ得ズ余ハ自今以後通信ニ、雜誌ニ、其ノ他余ノ支配シ得ヘキ總テ

言ヲモ一々通訳ノ勞ヲ執ルニ對シテハ實ニ適當ナル賞辭ナシト謂フモ不可ナシ云々

二四一 一月十六日

桂兼任外務大臣ヨリ
在英國小池臨時代理大使宛

朝鮮總督暗殺陰謀裁判ニ關聯シ朝鮮覆審法院

ノ權限説明ノ件

機密送第四号

本件ニ關シ客年十二月十七日付機密公第九六号ヲ以テ加藤大使ヨリ報告ノ次第閱悉大使ノ「バルフォア」男等ニ對スル回答振ハ至極適當ト被存候尤モ覆審法院ハ事實ヲ審理スルモノニアラザル云々ノコト相見エ候処御承知ノ通朝鮮總督府ノ裁判所ハ地方法院、覆審法院、及高等法院ノ三院ヨリ成リ覆審法院ニ於テハ地方法院ノ控訴及抗告ニ付裁判ヲ行フコトト相成居リ即チ同院ハ内地ノ控訴院同様本件ノ如キ控訴事件ニ付当然事實ヲ審理シ法律ヲ適用シ得ル權限ヲ有スル次第第二有之候ニ付為念此段申進候也

註 外交文書第四十五卷第一冊四四八文書參照

二四二 一月二十一日

在紐育沼野總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

三四九

一三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 二四三

朝鮮陰謀事件ニ関聯シ紐育「ヘラルド」ノ聯

合通信社ニ対スル謝罪社説ニ付続報ノ件

機密第二号

(三月四日接受)

大正二年一月廿一日

在紐育

總領事代理 沼野 安太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

紐育ヘラルド及聯合通信社確執ニ関聯シ「オール」ガ極東ヨリ召喚セラレタルコトハ曩ニ機密第五一号ヲ以テ報告致置候処其後「オール」ハ愈々極東通信員ヲ罷メラレ在華盛頓府通信員トシテ勤務中ニ有之候尚旧東洋通報社員馬場恒吾ノ聞ク所ニヨレハ当地紐育ウォールド記者「リチー」ハ近頃在朝鮮米人宣教師ノコトニ就キ電話ヲ以テ長老派外国伝道部幹事ブラウン氏ニ質問セントシタルニ同氏ハ紐育ヘラルドノ豹變的謝罪論説(大正元年十二月十八日付機密第五一号拙信)以來新聞ナルモノニハ信賴ノ念ヲ失ヒ如何ナル新聞記者ニ対シテモ会谈スルヲ欲セスト公言シタル由ニ有之ハ一小話柄ニハ候ヘ共右謝罪論説ノ長老派宣教師等ニ与ヘタル一影響トシテ注目スヘキコト、被考候右報告

大邱覆審法院ノ判決書写

大正二年刑控第二五七号

判決

京畿道開城郡邑内広文岩部八十七統五戸

朝鮮貴族男爵学校教師

被告 尹 致 昊

四十八年

京城西部慕華館二統十九戸無職

被告 梁 起 鐸

四十三年

平安南道竜岡郡山南面弘文洞無職

被告 林 崑 正

三十三年

平安北道定州郡五山面二里竜洞米穀商

被告 李昇基 李 寅 煥

五十年

平安南道平壤府大興面二里八統十戸書籍商

被告 安 泰 国

三十九年

一三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 二四三

申進候 敬具

三五〇

註 在紐育沼野總領事代理ノ大正元年十二月十八日附機密第五一号ニ付テハ第四十五卷第一冊四四九文書参照

二四三 七月十九日

山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
松井外務次官宛

朝鮮陰謀事件ニ関シ大邱覆審法院ニ於テ再審

ノ結果原判決懲役十年ノ尹致昊外五名ニ対シ

懲役六年ノ判決ヲ与ヘタル件

官秘第九号

(七月二十一日接受)

大正二年七月十九日

朝鮮總督府政務總監 山 県 伊 三 郎(印)

外務次官 松井慶四郎殿

通 報

朝鮮總督暗殺陰謀事件被告人尹致昊外五名ニ対スル京城覆審法院ノ判決ニ対シ被告人等ヨリ上告ノ結果高等法院ニ於テ原裁判ヲ破棄シ大邱覆審法院ヲシテ再審セシメタル処同覆審法院ニ於テ本月十五日別紙写ノ通各懲役六年ニ処スル旨判決ヲ与ヘ被告人等ハ全部上告致候条此段及通報候也(別 紙)

平安南道中和郡東頭面下山里戊辰市場一統七戸農

被告 玉 觀 彬

二十三年

右謀殺未遂被告事件ニ付大正元年九月二十日京城地方法院ニ於テ言渡シタル判決ニ対シ各被告ヨリ控訴及上告ノ結果高等法院ニ於テ被告六名ニ対スル有罪ノ部分ヲ破毀シ事件ヲ当院ニ移送シタルニ因リ朝鮮總督府檢事黒川穰岡本至徳干与審理ヲ遂ケ当院ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

一審判決中被告尹致昊梁起鐸林崑正李寅煥安泰国玉觀彬ニ関スル部分ヲ取消ス

被告尹致昊梁起鐸林崑正李寅煥安泰国玉觀彬ヲ各懲役六年ニ処ス

各被告ニ対シ未決勾留日數百八十日ヲ各本刑ニ算入ス

押収物件ハ各差出人ニ還付ス

理 由

(註 以下理由省略ス)

依テ刑事訴訟法第二百六十一条第二項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

三五一

大正二年七月十五日

大邱覆審法院刑事部

裁判長朝鮮總督府判事 浅田賢介

朝鮮總督府判事 齋藤庄三郎

朝鮮總督府判事 立川二郎

朝鮮總督府裁判所書記 滝原儀太郎

朝鮮總督府裁判所書記 早川篤一

二四四 八月十三日

寺内朝鮮總督ヨリ
牧野外務大臣宛

朝鮮陰謀事件裁判ニ際シ拷問行ハレタリトノ

「ジャパン、アドヴァタイザー」掲載ノ寄書

ニ関スル件

附屬書一 朝鮮總督府警務總長報告書

二 大邱覆審法院ニ於ケル黒川検事長報告要旨

官秘第九号

(八月二十二日接受)

大正二年八月十三日

朝鮮總督伯爵 寺内正毅(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

(附屬書一)
写

朝鮮總督府警務總長報告書

警高機発第一八三六号

大正二年八月一日

朝鮮總督府警務總長 明石元二郎

外事局長 小松緑殿

七月二十九日官秘第九号ヲ以テ陰謀事件ニ関スル新聞寄書ニ関スル件御照会ノ旨了承即チ本件「ウキルソン」「ダンロップ」兩名共ニ内地居住ノ者ニシテ其ノ如此言動ヲ為スノ原由更ニ不明ニ候間右様御了知相成度此段及回答候也
追テ左記事項為御参考申添候也

一、不逞事件ニテ無罪ノ判決ヲ受ケ放免セラレタル被告人ハ大正元年九月二十八日京城地方法院判決ニヨリ十七名大正二年三月二十日京城覆審法院判決ニヨリ九十八名ノ二回ニシテ前者即チ十七名ノ時ハ放免セラレタル者ニ対シ身体検査ヲ為シタルヲ聞カズ後者即チ九十八名放免セラレタル時ハ米人宣教師ニシテ医師タル「エビソン」ノ経営スル京城南大門外濟衆病院一名「セベランス」病院ニ於テ放免セ

一三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 二四四

客月十六日刊行「ジャパン、アドヴァタイザー」ニ掲載セラレタル陰謀事件ニ関スル宣教師「ウキルソン」及「ダシロブ」兩人署名ノ寄書ノ件ニ関シ右寄書中医師検診ノ事実ノ有無其他該寄書ノ顯ハルルニ至レル真相等御問合相成候処右兩人共内地居住ノ者ニシテ其ノ此ノ如キ言動ニ出ヅルノ真相正確ニ判明兼致候ヘ共本陰謀事件発生以来一部宣教師間ニハ拷問問題ニ極メテ重キヲ置キ若シ帝國官憲ニシテ之ニ対シ相当ノ措置ヲ執ラザルニ於テハ本件終了ノ日ヲ待テ各種ノ証拠ニヨリ拷問ノ事実ヲ挙ケ以テ官憲ノ非ヲ鳴ラサムトノ計画有之哉ニ聞及ヒ居候次第モ有之候ニ付客月三日大邱覆審法院ニ於ケル検事ノ論告中被告ノ自白ヲ以テ拷問ニ依ラズ任意ニ出デタルモノトナシ之ヲ以テ被告ノ有罪ヲ論断セルヲ以テ或ハ前記兩人ニ於テ之ニ對抗シ翌々五日附前記寄書ニヨリ拷問ノ事実存在スル旨公表シタルニ非ズヤト被思料候次ニ医師検診ノ事実ノ有無ハ正確ニ判明不致候ヘ共該検診並前記宣教師ノ行動ニ付警察官憲ヨリ別紙ノ通報告有之候ニ付テハ御参考迄茲ニ添付致候ニ付御査閱相成度此段回答申進候也
追テ為念本文検事論告写封入致候

ラレタル者ヲ三月二十一日招待シ身体検査ヲ為サントシタルニ三十余名ハ取ルニ足ラズトシテ応ゼズ因ツテ六十余名ヲ招キ検査シタルモ元ヨリ不実ノコトナルヲ以テ從ツテ痕跡等ノ存スル理ナク遂ニ無効ニ了リタリトノコトハ當時聞知セリ

「アドヴァタイザー」掲載記事中「ウキルソン」「ダンロップ」ハ資格アル医師ト同伴シ云々トアリ而シテ前顯身体検査ハ京城覆審法院判決ニヨツテ放免セラレタル者ニ為シタルモノナルヲ以テ此兩名ノ云フ処モ此時ヲ指スモノナラシカ然レ共當時此兩者ハ朝鮮ニ在ラス又放免セラレタル者ハ京城ニハ二日間滞在シテ帰郷シタルモノニシテ此兩名ト出会ノ時機ナカリシモノナルヲ以テ其主張ノ如ク果シテ自ラ検査ヲ為スノ機会アリシヤ聞知シタルコトナシ

二、兩名ノ寄書日時ハ七月五日ニシテ大邱覆審法院公判進行中ノ日付ニ恰當シ放免セラレタルハ三月二十日ナルヲ以テ其間一百日余ヲ経過セリ主張ノ如ク身体検査ヲ為シ確証アリトセハ多数ノ日時ヲ徒過シ大邱覆審法院弁論中ヲ待チ殊ニ朝鮮ニ来リ寄書ヲ為セルヤ或ハ他ニ為ニスル所アルニアラザルヤ元来此兩名ハ朝鮮在住ノ者ニアラズ「ウキルソ

ン」ハ岡山市「ダンロップ」ハ金沢市居住ノ宣教師ニシテ当朝鮮ニハ從來毫モ縁故ナキ者ニ属シ其朝鮮ニ来リタルハ尹致昊等ノ事件公判後ヲ以テ始メトス而シテ兩名ハ其言動ヨリ推スニ大分県別府居住ニシテ不逞事件ニ反対奔走ヲ為ス「ピーターズ」ト共ニ極端ナル被告擁護者ナルカ如ク全ク朝鮮ニ縁故ナキニ拘ハラス朝鮮人事件ニ関シ公判傍聴ノ為メ屢々來鮮シ又新聞等ニ寄書シ殊ニ此者等ハ宣教師タルノ傍ラ「ピーターズ」ハ「ジャパン、アドヴァータイザー」「ジャパン、エバンゼリスト」「チャイナ、プレス」組有「アウトルック」又「ウキルソン」ハ「ジャパン、エバンゼリスト」ノ通信員ナリ而シテ却ツテ「ピーターズ」ノ担任タル「アドヴァータイザー」ニ寄書スルカ如キ其意ヲ知ル能ハス要スルニ此者等ハ内地ニ数十年來住シテ基督ノ布教ニ從事シツ、アルモノニシテ朝鮮トハ從來更ニ關係ナク偶々尹致昊等ノ事件以來屢々來鮮シ而モ從來朝鮮ニ在住シ不穩ノ言動ヲ為ス傾アル米人宣教師ヨリモ一層穩カナラサル虚構ノ言辞ヲ弄シツ、アリ蓋シ此言動ヲ為ス原因ハ他ニ存シ偶々本件ニ藉ツテ攻撃スルニ出ヅルニアラザルナキカ然レトモ此者等ハ前頭ノ如ク朝鮮在住者ニアラズ又縁故

第一警務總監部ハ朝鮮ニ於ケル司法警察官ノ模範ナリ今其ノ模範タル司法警察官カ而モ本件ノ如キ内外人ノ注目スル重大ナル事件ノ取調ニ付テ敢テ拷問ヲ行ヒタリト云フカ如キコトハ到底常識ヲ以テハ想像ノ出来サルコトナリ
第二各被告ガ云フ如ク果シテ拷問セラレタリトセハ其ノ収監ノ際行フ所ノ健康診断ニ依リ身体ニ異状ヲ認ムル筈ナリ然ルニ何等此ノ事ナキハ拷問セラレタリトハ全ク偽リナルコト明瞭ナリ

第三被告カ拷問セラレタリト云ヒ其ノ方法トシテ陳ブル所ハ或ハ南山ニ連レ行カレテ樹木ニ吊リ下ゲラレタリト謂ヒ或ハ水責ニ会ヒタリト謂フ殆ト一笑ニモ値ヒセザルモノ尠カラズ其ノ不実タルヤ知ルベキノミ

第四若シ真ニ當時拷問ヲ為シタリトセムカ其ノ答弁ハ常ニ訊問官ノ欲スル儘ニ出デテ回答相一致スヘキ筈ナルニ其ノ答弁中其ノ一部ヲ認メ乍ラ他ノ一部ヲ認メザル供述尠カラズ而モ其ノ認メザル部分ハ自己又ハ他人ニ何等ノ利害ヲモ及ボス如キ事項ニモ非ザルコトナリ例ヘハ李春燮ガ事按ノ全部ヲ認メナガラ總督巡視ノ日取ヲ「安泰國カ總督府ノ日本人官吏ヨリ聞イタトノ事ハ間違ナキカ」トノ趣旨ノ問ニ

モナク不逞事件以來各審公判開廷中來鮮シテ幾日間滞在スルニ過キス徒ラニ此言動ヲ敢テスルモノニシテ寄書ヲ為シタル真相ニ至ツテハ在鮮米人宣教師等ト事件發生以來交通ヲ為スノ外当地ニ於テハ知ルニ由ナシ

(附屬書二)

尹致昊外五名陰謀被告事件ニ関シ大邱覆審法

院ニ於ケル黒川検事長弁論要旨

本件ノ証拠ハ証人ノ証言、押収物件、尹致昊並原審相被告ノ警務總監部及検事廷ニ於ケル自白等夥多アルモ就中尹致昊並原審相被告ノ自白ハ本件ニ至大ノ關係ヲ有シ最有力ナル証拠ナリ然ルニ尹致昊ヲ初メトシ自白ヲ為シタルモノノ殆ト全部ハ原審ニ於テ之ヲ取消シタルヲ以テ其ノ信憑力如何ニ付茲ニ聊カ論定スルノ必要アリト認ム故ニ先ヅ此ノ点ニ付一言セム

尹致昊ハ暫ク措キ原審ニ於ケル百有余名ノ相被告ハ異口同音ニ警務總監部ニ於テ拷問セラレタルヲ以テ其ノ苦痛ニ堪ヘス自白シタリト弁解セリ然レトモ其ノ自白ガ拷問ノ結果ニアラザルコトハ以下開陳スル所ニ因リテ甚タ明ナリト思料ス

對シ「左様ニ聞イタ様ニモアリマスガ只今明白ニ記憶シマセヌカラ申上ゲラレマセヌ」ト答ヘタルガ如キ同様ノ事例尠カラズ是ニ因テ之ヲ觀レハ彼等カ徒ラニ訊問官ノ問ハルル儘ニ答弁ヲ為シタルニ非ラザルコト自カラ明瞭ナルヘシ殊ニ警務總監部ニ於テ全然事實ヲ否認シタルモノモアリ崔叡恒、車永俊、鮮干薰等之レナリ若シ否認スルモノニ對シ拷問ヲ為シタリトセハ同人等ハ劇烈ナル拷責ヲ受ケタル筈ナリ然ルニ此ノ者等ハ毫モ拷責セラレタルコトヲ申立テザルニ非ズヤ加之其ノ自白ヲ為シタルモノノ多クハ検事廷ニ於テモ尚ホ自白セリ又自白セザルモノト對質ノ際ニモ尚ホ自白セリ梁濬明、吉鎮亨等是レナリ又金一濬ノ如キハ原審公判廷ニ於テモ詳細ノ自白シタルニ非ズヤ以上ノ理由ニ依リ考察スルトキハ當時拷問ノ事實ナク自白ハ全然任意ニ出デタルモノナルコトヲ知ルヘシ畢竟彼等ガ拷問セラレタリト云フハ刑事被告人ノ常套語ニ外ナラズト思料ス

或ハ曰ハム原審検事ニ於テ不起訴処分ニ付シタル朴乃厚ガ當時憲兵隊ニ拘禁中ナリシニ不拘本件暗殺ノ実行者ト為リ宣川停車場ニ行キタリトノ供述ハ虚偽ノ自白ナルコト甚ダ明瞭ナリ故ニ自白必シモ信ヲ措クニ足ラズト然レトモ是ノ

者ハ納清亭組ニシテ新民會員ナリ其ノ拘禁前迄本件暗殺ノ行動ニ加ハリ又此ノ目的ヲ達スルガ為ニ屢強盜ヲ犯シタル事實アリテ斯カル虚言ヲ吐クモ為ニ其ノ責ニ輕重ヲ来スヘキ場合ニアラサリシヲ以テ漫然如斯虚言ヲ吐クニ至リタルモノニシテ如此事例ハ本職等ノ往々見聞スル所ナリトス又相被告ノ自白ニ依レハ納清亭ノ一行ハ定州ヨリ汽車ニ乗テ宣川ニ赴キタル事實トナリ居ルモ当日ノ兩駅間ノ乗降客ハ該一行ノ員數ニ達セサルノ反証ニ依リ右ノ自白ハ虚偽ナリト主張スルモノアラムモ定州ト宣川トハ七里ヲ隔ツルニ過キズシテ当日該一行ガ定州ニ著シタルハ朝食前ナリシトノ供述ニ依リ觀レハ其ノ一部ハ或ハ徒歩ニテ宣川ニ赴キタルヤモ知ルヘカラス要スルニ如斯汽車ニテ行キタルト徒歩ニテ行キタルト其ノ何レニスルモ罪責ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非サルヲ以テ訊問官ニ於テモ深く注意ヲ払ハズ供述者ニ於テモ漫然如斯キ申立ヲ為シタルモノナルベシ其ノ他自白中多少當時ノ人員又ハ日時等ニ付キ相違ノ点ナキニ非ザルモ已ニ一年ヲ經過シタル事實ニ付テノ供述ナルヲ以テ如斯ハ遺忘ニ伴フ自然ノ結果ニシテ寧ロ当然ノコトト云フベク殊ニ本件ノ如キ長日月ニ渉ル多數人ノ行動ニ付テハ其

ノ供述全然一致セザルハ反ツテ其ノ自白ノ真実ニシテ任意ニ出デタルモノナルコトヲ示スニ足ルモノト思料ス故ニ罪責ニ關係ナキ如斯些末ノ事項ニ付キ多少ノ相違アリタリトスルモ以テ自白ノ全部ニ對スル信憑力ニ疑ヲ挾ムハ觀察ノ誤レルモノト謂ハザルベカラズ特ニ注意スベキコトハ司法警察官ニ對シテハ殊更虚偽ノ自白ヲ為シ置キ後日反証ヲ奉ケ以テ自白全体ノ信憑力ヲ薄弱ナラシメムトスルハ彼等ノ慣用手段ニシテ本職等ノ往往遭遇スル所ナリ恐ラクハ本件モ亦其ノ一例ナラムカト思料ス

抑モ自白ガ虚偽ニ出デタル場合ハ其ノ云フ所必ズヤ事理ニ適合セザルモノアルベシ然ルニ本件被告ノ自白ハ秩序整然頗ル事理ニ適合ス即チ其ノ自白スル所ニ依レハ本件ハ秘密結社ナル新民會員ノ行動ニシテ被告尹致昊等ハ其ノ中枢ニシテ原審ノ相被告等ハ其ノ命令ニ從ヒ之カ実行ノ任ニ當リタルモノナリ而シテ新民会ハ本部ヲ米国ニ支部ヲ朝鮮浦塩等ニ置キ尹致昊ハ其ノ會長トナリ被告安泰國ハ平安南道ニ同李昇薰ハ平安北道ニ各主領トナリ梁起鐸、林崑正ハ京城ニ在リテ枢機ニ參シ或ハ学校ヲ設立シ或ハ新聞ヲ發行シ其ノ他種々ノ方法ヲ以テ大ニ排日思想ノ鼓吹ニ勉メ一面日韓

協約ノ衝ニ當リタル統監ヲ初メ旧韓國大臣ヲ暗殺シ朝鮮人民ガ日本ニ服從セザルコトヲ表シ内ハ絶エス民心ヲ激勵シ外ハ列國ノ同情ヲ求メ以テ國權回復ニ資セムトセリ伊藤公、スチーヴンス氏、李完用伯ノ遭難ノ如キ實ニ此ノ結果ニ外ナラス斯ル折柄明治四十三年八月ニ至リ愈日韓併合ノコト行ハルルニ至リタルヲ以テ新民會員等ハ大ニ之ヲ憤慨シ遂ニ本件總督ノ暗殺ヲ企図スルニ至レリト云フニ在リ是レ原因アリ結果アリ脈絡貫通事理整然タリ彼ノ曖昧模糊雲ヲ捕フルカ如キ自白ト同一ノ論ナラムヤ是レ本件被告ノ自白ハ大ニ信ズルニ足ルト思料スル所以ノ一ナリトス

又虚偽ノ自白ナルモノハ多ク訊問官ノ予断ニ基ク誘導的訊問ニ依リ稀ニ生スル所ノ現象ナリ今本件ニ付テ是ヲ觀ルニ國友監視ノ証言ニ依ルモ一件記録ニ付テ之ヲ觀ルモ本件発覚ノ動機ハ極メテ簡單ナル事實ノ探知ニ始マリ続テ一部ノ者ノ強盜事件發覺シ其ノ取調進行ノ結果漸次範圍擴大シ遂ニ本件ノ如キ錯綜シタル事按ヲ發見スルニ至リタルモノニシテ當時訊問官ハ本件ノ伏在ハ知ラザル所ナリ故ニ予断アルベキ理ナク誘導的訊問ハ之ヲ行ハムトスルモ能ハザル所ナリトス況ヤ本件ハ關係人多數ニシテ犯罪ノ道行モ亦長日

月ニ涉リ其ノ關係頗ル錯綜シ到底其ノ事ニ當リタル被告人以外ノモノノ想像シ得ヘキ事柄ニ非ス即チ自白ニ依リ本件ノ内容ヲ知り從テ之ヲ檢舉スルニ至リタルモノニシテ本件ノ自白ハ最信ヲ措クニ足ルト思料スル所以ノ二ナリトス特ニ尹致昊ハ勿論自白ヲ為シタルモノノ多クハ相當ノ位地信用ヲ有シ寧ろ地方ニ於テ一流ノ人物ト仰ガル者ナリ梁濬明、張膺震、尹聖運ノ如キ特ニ然リトス其ノ他多クハ文明ノ教育ヲ受ケタルモノナルヲ以テ本件ノ如キ重大ノ責任ヲ惹起スベキ事項ヲ徒ラニ是認スヘキ理ナキハ實ニ多言ヲ俟タザル所ナルベシ是亦本件自白ノ信憑力ノ至大ナリト思料スル所以ノ三ナリトス

其ノ他林問燁、李根宅ノ携帶シタル短銃ハ右兩人ノ自白ニ基ギ之ヲ發見シタル等自白ノ信憑力ヲ証スベキ事項一ニシテ足ラズト雖以上陳ベタル所ヲ以テ大略証明シ得タリ之ヲ要スルニ本件ハ犯罪ノ証憑十分ニシテ原裁判ハ事實ノ認定、刑ノ量定寔ニ相当ナリト思料ス

尚ホ論スベキ事項アリト雖引続キ岡本檢事ノ論告アルヲ以テ本職ハ茲ニ止ム

二三 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 二四五

二四五 十月十五日

山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
松井外務次官宛

朝鮮總督暗殺陰謀事件ニ関スル高等法院判決
通報ノ件

官秘第二〇号

(十月二十日接受)

大正二年十月十五日

朝鮮總督府政務總監 山県伊三郎(印)

外務次官 松井慶四郎殿

朝鮮總督暗殺陰謀事件ニ関シテハ曩ニ七月十九日附官秘第九号ヲ以テ被告尹致昊外五名ニ対スル大邱覆審法院ノ判決書写及御送付置候処被告等ハ該判決ニ対シ高等法院ニ上告ノ結果本月九日上告棄却ノ判決ヲ与ヘラレ候条別紙判決書写相添此段及通報候也

(別紙)

朝鮮總督暗殺陰謀事件ニ関スル高等法院判決
書写

大正二年刑上第八〇号

判決書

京畿道開城郡邑内広文岩部八十七統五戸

朝鮮總督府判事 石川 正
朝鮮總督府判事 平島直太郎
朝鮮總督府判事 金洛 憲

三五八

朝鮮貴族男爵学校教師

被告 尹致昊

四十八年

(註 以下被告五名ノ住所氏名省略ス前掲二四三文書ノ別紙参照)

右謀殺未遂被告事件ニ付大邱覆審法院が大正二年七月十五日言渡シタル判決ニ対シ各被告ヨリ上告申立ヲ為セリ因テ当院ハ朝鮮總督府檢事国分三亥ノ意見ヲ聴キ判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

(註 以下理由省略ス)

以上説明スル如ク本件上告ハ一モ其理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五条ニ依リ主文ノ如ク判決ス

大正二年十月九日

高等法院刑事部

裁判長朝鮮總督府判事 岩野新平
朝鮮總督府判事 浅見倫太郎

朝鮮總督府裁判所書記 加茂見治